

・コラム「『ひとり』を何で支えるか」
(杉浦 良)

・お知らせ(粉石けんの販売、二重
窓設置、体験ボランティア)

・リサイクル作業所日記/職員雑感

・ご支援下さった皆様 / 編集後記

NPO法人 太陽と緑の会

かわら版

140号/2010年

Since 1984

— 『ひとり』を何で支えるか — 杉浦 良

Mさんのお父さんが、亡くなりました。3人暮らしがお母さんとの2人暮らしになりました。小学校低学年から障害児のための収容施設で暮らし、中学校卒業と同時に仏壇製造会社に就職でき、親子3人の生活となった矢先でした。ただMさんの生活に大きな変化はありませんでした。自転車通勤で、仏壇パーツのペーパー磨きから、工場の掃除、品物の積み込みなど、よく働いてくれると工場長さんからも好評でした。母1人子1人の生活はそれなりに成り立っていました。仕事帰りに行きつけのスーパーでタイムサービスの惣菜を買い、ついでに自分の好きなお菓子も買えることは、Mさんにとって楽しみでした。お母さんはご飯と味噌汁を作って、Mさんの帰りを待っていました。

「ボクがな、おかずを買ってくると、お母さんは喜んでくれるんよ！うれしかったわ！」そう語るMさんの目から、大粒の涙があふれ出しました。タバコ好きだったお母さんが、喉に異常を感じたのは、お父さんが亡くなって10年ほどたった、ある日のことです。病院で検査をすると、喉にガンが見つかりました。かなり進行しているのと、手術の難しさから、手遅れの判断がなされました。仕事が終わりに病院に駆けつけると、日々衰えていく母がいました。仕事帰りに弁当を買って、そのまま病院に通う生活が続き、とうとう最後の時がきました。泣くことしか出来なかったMさんです。

簡単な葬儀が終わると、抜け殻となったMさんがありました。工場の方々は気長に仕事に出てくるのを待ってくれましたが、Mさんにはその気力がありません。いつしか仕事を辞め、生活が成り立たなくなって、施設で暮らすことになりました。家賃の未払い分と部屋の荷物の処分料で預貯金はなくなりました。両親の位牌と、わずかな生活用品が手元に残りました。

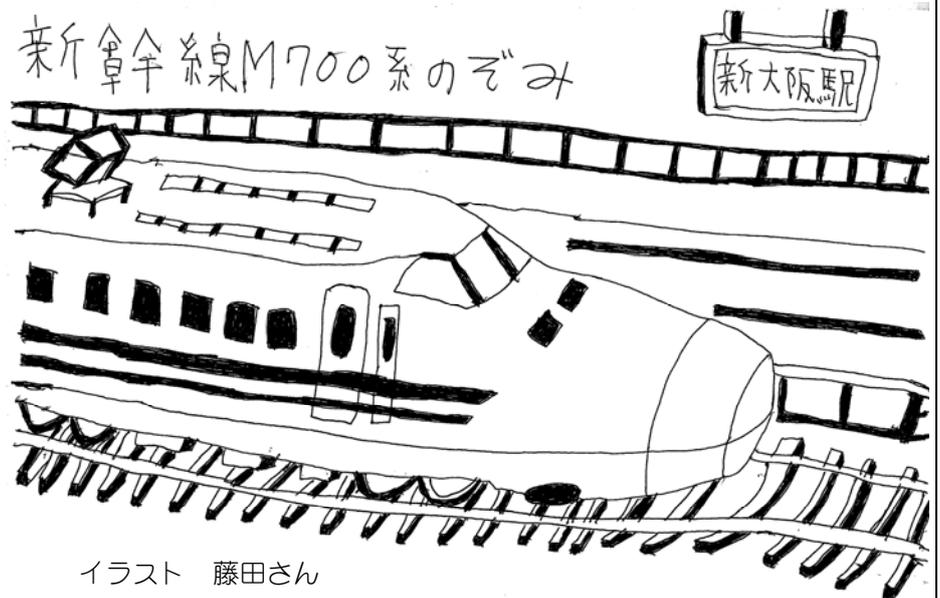


イラスト 藤田さん

施設の暮らしに慣れてきた頃、無断で施設を抜け出し、母親の入院した病院前の海を見つめる M さんがいました。職員の方々が手を尽くしましたが、脱走する M さんを止めることが出来ません。

そんな M さんに道筋を付けたのは園長先生でした。「自転車の仕事がない！」そうポロッとこぼした M さんに、自転車のリユース作業をしている障害者小規模作業所を紹介しました。不要になった自転車を一般家庭から回収し、使えるパーツは再使用し、ダメなパーツは交換し、修理再生して、もう一度市民の方々に使ってもらうのをおもな作業としていました。点検整備は経験ある職員が行いますが、タイヤなどのパーツ交換から、シールはがし、錆落とし、ワックスかけまでハンディーを持ったメンバーたちが行います。自転車好きの M さんは熱心に作業を続け、自転車作業ナンバーワンといわれる S さんと、張り合うまでになりました。そして作業所近くの共同生活棟に空きができると、園長先生に連れられて施設から引っ越してきました。両親の位牌をそっと生活棟にある共同仏壇に置き、新たな生活の開始となりました。生活費

は障害者基礎年金と作業所からの賃金でまかなう事ができました。しばらくしたある日、あの病院前の海通いが始まりました。同じ生活棟で暮らす T さんたちに、延々と自分の母親の最後を、涙声で語り始めました。繰り返し何度も何度も聞かされるその T さんも、母親を亡くして天涯孤独でした。T さんの母親の位牌

は、M さんの両親の位牌の隣にありました。

「おれも 1 人だし、親子共々よろしく願いしまーす！」そんなに明るくていいのかと、心配するくらいの挨拶です。作業所に充分慣れてきたとある日、暗い顔をした M さんがいました。「体がしんどいよ・・・。このまま病気で死んでしまったら・・・？」蚊の鳴くような声です。「あんなあ・・・。雨の日も風の日も、毎週海に通ってたら、わしでもしんどいわ！お母さんも毎週来んでもいいと、あの世から言うとするで！休みの日くらいしっかり寝とけ。」そう諭されてその日の外出をやめました。ある時「咳が出てしんどいよ。このままお母さんのようになるんやるか・・・？」と沈み込んでいます。「タバコをそんなに吸ったら、咳も出るわ！値段も高くなったし、小遣いなくなるし、母さんの後を追いたくなかったら、はやめ！」と T さんの後押しもあって、あれほどやめられなかったタバコを、とうとう M さんがやめました。

(これは日々日常をつなぎ合わせたイメージ論です。)

新幹線で行くオートカメラ旅行
自分は新幹線のぞみにのり、7 月 2 日旅行に行きました。徳島駅から博多駅までの金道写真もたくさん取りました。このイラストはのぞみが新大阪駅から発車し、7 月 2 日新幹線「みずほ」と「きくらが」がデビューします。

文 藤田さん

お知らせ

テンプラ廃油から作った粉石けんの販売について

太陽と緑の会では、リユース・リサイクル事業の一環として、市民の皆様から提供して頂いたテンプラ廃油を滋賀県大津市のマルダイ石鹸本舗へ持ち込み、廃油から作った粉石けんを購入して持ち帰り、市民の皆様に販売する、という事業を行ってまいりました。

1000 リットル（ポリタンク 50 本）のテンプラ廃油を小型トラックに積み、職員及び様々なハンディを持ったメンバーでマルダイ石鹸さんの工場を見学させて頂き、持ち込み廃油量に見合う粉石けん 500 袋（1.5 トン）（2 リットルの廃油から 3 キロの粉石けんが作られる）を積んで帰る、ということをし、平成 3 年に始め、以後 7 年、9 年、13 年、17 年と行い、累計 5000 リットルのテンプラ廃油を 7.5 トンの粉石けんにして販売してきました。

価格は、当初 1 袋 3 キロ 770 円でしたが、平成 9 年 7 月に 700 円に値下げし、以後 13 年間維持してきました。マルダイ石鹸本舗の現在の希望小売価格は 820 円であり、それを 700 円という実費に近い価格で販売しているのは、おそらく当会だけです。

平成 19 年に徳島市でテンプラ廃油の B D F 化の事業が本格的に始まり、当会でも地産地消の観点から同事業に協力するようになり、市民の皆様から当会に提供して頂いたテンプラ廃油は、すべてディーゼル燃料として活用するようになりました。

テンプラ廃油から作った粉石けんにつきましては、この 8 月で完売しましたが、品質の高さと安全性で根強い固定ファンの皆様がおられることから、粉石けんを単独で仕入れ、販売を継続することに致しました。

しかし、仕入れ方法の変更により輸送コスト等が増えたため、従来のような特別価格での販売は困難となり、本来の希望小売価格である 820 円で販売することに致しました。

今後ともよろしくお願い致します。

テンプラ廃油から作った粉石けん
3キロ 1袋 820円

マルダイ石鹸 (脂肪酸ナトリウム) や液体せっけん (脂肪酸カリウム) は下水処理が滞っている徳島でこそ、オススメです。下水道や合併浄化槽が整っているところでは、省資源タイプのコンパクト洗剤を使い、そのまき溝や川に排水が流れるところでは、水環境に負担の少ないせっけんを使いたいものです。
NPO 法人 太陽と緑の会

廃食油から作った粉石けんです
琵琶湖のほとり、マルダイ石鹸さんで、高温滅菌法により作られました。13年からの歴史を経て頂いた廃食油を回収まで運び、粉石けんに再生してきましたが、先-セル燃料(BDF)に再生する事業が徳島で立ち上がり、地産地消の観点から回収した廃食油は BDF としで活用し、マルダイ石けんご愛用の皆さんには、運賃から粉石けんを運ぶのもうことで対応したいと思っております。そのため、輸送コスト分の値上げをお許し下さい。(今までの3キロ700円は本誌と別の会社からの特別価格で、3キロ820円が10年前からのマルダイ石鹸価格です)
3キロ 1袋
820円

二重窓設置⇒CO₂削減

9月21日 太陽と緑の会事務局建物の事務室、面談室の窓に内窓を設置して二重窓にしました。設置工事はモトカワ建装さんをお願いしました。

太陽と緑の会事務局建物では、独自の換気システムを導入するとともに、杉間伐材や断熱材を活用した、エアコンレスのエコハウスとなっています。冬はとても暖かく、事務室と面談室のみ来客用(見学等)に石油ファンヒーターを置いてありますが、ワンシーズンで使う灯油はわずか40リットルです。

今回二重窓を導入したことで、今年の冬の灯油消費量はさらに少なくなると考えています。また夏は、事務室、面談室のみ来客用にエアコンを設置しており、エアコンを使用すること自体少ないですが、二重窓の断熱効果により、電気使用量が減ることと思います。

二重窓の設置によって、冬の灯油節約、夏の電気節約、ひいてはCO₂削減につなげていきたいと思っています。

10月15日、太陽と緑の会月の宮共同生活棟(エアコンレス)の、メンバー及び職員の個室6部屋の窓(計10窓)に内窓を設置して二重窓にしました。(設置工事モトカワ建装さん)

二重窓の効果で、冬場はかなり暖かくなることと思います。

月の宮共同生活棟は、平成5年4月より、様々なハンディを持ったメンバーの新たな生活の場としてスタートしました。徳島自動車道建設のため解体予定だった榎木内工務店さんの事務所兼倉庫建物を、木内昭社長のご好意により現在地に移築させて頂いたものです。

ここでは、太陽光発電システム(6.48kw)により電力は完全に自給している他、太陽熱温水器の温水を風呂・炊事に活用しています。

多くの建築資材、照明器具、畳、サッシ、流し台、風呂、家具、食器類に至るまで全体の約8割はリユース品を使用し、木内氏をはじめ、地元のボランティアの皆様の協力も頂いて建設されました。

また当初より自然循環型生活システムを導入しており、生ごみはニフトリのえさ、もしくはコンポストBOXによって堆肥としています。ふん尿は2連の1200リットルのタンクで好気性バクテリアによって分解して畑に還元し、生活排水は排水池で処理しています。



来所・見学

8月27日午後1時半～3時、山口県立大学3年生の谷口さんと徳島市障害福祉課課長補佐の湯浅さんが見学のため、太陽と緑の会に来所。8月23日から徳島市役所で実習中とのことでした。

9月9日、精神障害者生活訓練施設ウィスパーより、職員2名、実習生2名の計4名の方が、地域活動支援センター太陽と緑の会リサイクル作業所に見学にられました。実習生はそれぞれ高知、兵庫の大学4年生で城西病院（徳島市）にて1ヶ月間の実習中であり、卒業後は出身地の徳島でPSWとして働きたいとのことでした。

9月17日 ワーカーズコープ杉本さん、青木さん来所。

「いま「協同」を拓く2010全国集会 in 四国」（高松市）（11月13日、14日開催）分科会の打ち合わせ。杉浦がパネリストとして出席予定。

体験ボランティア

9月2日～4日、久木田君
（長崎県在住）

10月2日～3日、内藤さん
（長崎県在住）

リユース・リサイクル等の活動をボランティアとして体験してくれました。同時に、月の宮共同生活棟で、25才から60才の様々なハンディを持ったメンバー4名、当会職員2名の計6名との共同生活も体験しました。

会議など

9月25日 徳島県障害者地域共同作業所連絡協議会研修会（徳島市）杉浦出席

9月25日 前太陽と緑の会リサイクル作業所所長三木善史さん一周忌納骨式代表杉浦 理事櫛田出席

10月4日 第10回全国障害者芸術・文化祭とくしま大会実行委員会（於：徳島県庁）杉浦出席。

10月14日 同大会展示即売会打ち合わせ（於：徳島県庁）徳島県障害者地域共同作業所連絡協議会事務局として杉浦出席。同大会は平成22年12月10日～12日に開催されます。



メンバー米田太さんの詩集の製本作業

リサイクル作業所日記 2010

「朝ミーティングを始めます」

Aさんのよく通る声で一日が始まる。

今年還暦を迎えたAさんは、作業所に
来て26年、一番古株のメンバーである。

「体調を確認します。Bさん」

「体調の方はいけます」

「Cさん」「ちょっと、しんどいです。今
日は午前中で帰ります」

体調確認、スタッフの話と続く。

「では、挨拶の練習を。今日はG君」

Aさんのご指名により、Gさんが照れ
くさそうに前に出て来る。

「いらっしやいませ」とG君。

「いらっしやいませ」一同続く。

「ありがとうございました」

「ありがとうございました」

「今日も一日よろしくお願いします」

ミーティングが終わると、メンバー、
スタッフは、それぞれの担当のパートに
分かれて作業に入る。

新館。Bさんが玄関マットを掃除機で
掃除している。スタッフの木村さんが値
段を決め、Cさんが値札をつけ、Dさん
が売場に並べる。

お客さんが少しずつ増えて来る。

Eさんがクイックルワイパーで2階の
売場を隅から隅まで掃除していく。「いら
っしやいませ」の挨拶は時々忘れる。

掃除をしていると、あちこちから声か
かる。

「靴下ってどこにあるん？」

「トイレってないん？」

「これ値段がないんやけど、なんぼにな
るん？」

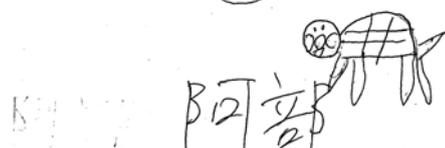
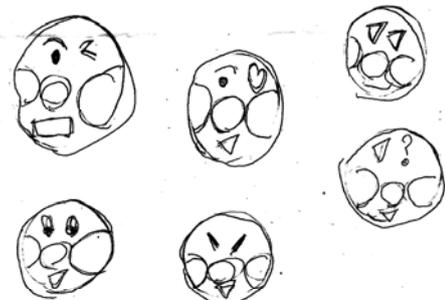
「支払いはどこで？」

売場のご案内など、自分のできること
はどんどんやる。自分ではちょっと分か
らないことは、分かるスタッフに聞いたり
、呼んできたりする。

マット掃除の終わったBさんは、パー
ト職員の筒井さんと売場の整理。

売場をきれいにしておくためには、朝
から晩までちょこちょこ整理していく
必要がある。きれいに片づけた所が、30
分後にはぐちゃぐちゃになっていること
も。それだけ、お客様が見て下さった、
ということでもある。(次号に続く)

アンパンマンの
色々な顔



新人職員 雑感

ここで働くようになってから、もう半年になろうとしています。初めは右も左も分からず戸惑うばかりでしたが、ようやくこの太陽と緑の会で自分が何をすべきか、ぼんやりと分かりかけてきた今日この頃です。といっても何もかもが順調ということでは決してありません。やはり、思わぬところで躓いたり、頭をぶつけたりしながら悩みこむという日々をすごしております。そんな中でも、最近一番考えさせられていることがあります。それは単純なようで複雑きわまるコミュニケーションについてです。

先日、あるメンバーの素行がいささか問題有りとされ、それに対して如何に対処するべきかを話し合う席で、彼が家庭の問題を抱えており、そこから生まれるストレスから逃れるために今の荒んだ行動があるのではないかと話したところ、それはまだメンバーとのコミュニケーションが足りないと言われました。その時は何を言われたのか分かりませんでした。が、今にして思えば、単純にその点だけで決め付けるなという事だったのではなかったのでしょうか。

メンバーが最近荒れている、彼は親とうまくいっていないそうだ、彼はその事で大分ストレスを感じている、故に彼が荒れている原因は家庭にある。すごくすっきりと問題がまとめられました。おそらく試験の答案用紙にこう書けば丸をくれるでしょう。しかし、実際に僕が相手

にしているのは答案用紙ではなく、生身の人間です。そんな簡単に割り切れるような理由だけが全てではないことは己の経験につき合わせてみれば十全に承知していることの筈だったのですが、分かりやすい答えに飛びつきたくなる性はいかんともし難く、単純な方程式で導き出された答えを唯一正しい答えと思い込んでしまったのです。そしてその問題について考えるということを放棄してしまったのです。いわばそこで自分が納得のいく答えを得られたことで満足していたのです。この満足感は「もっと深くコミュニケーションしないと駄目だよ」と言われた時もその言葉に対する反発という形をとって現れ、言葉の意味を考える前に「何を的外れなことを言っているのだろう」と意固地になってしまい、まともに聞いていない状態でした。今にして漸くその

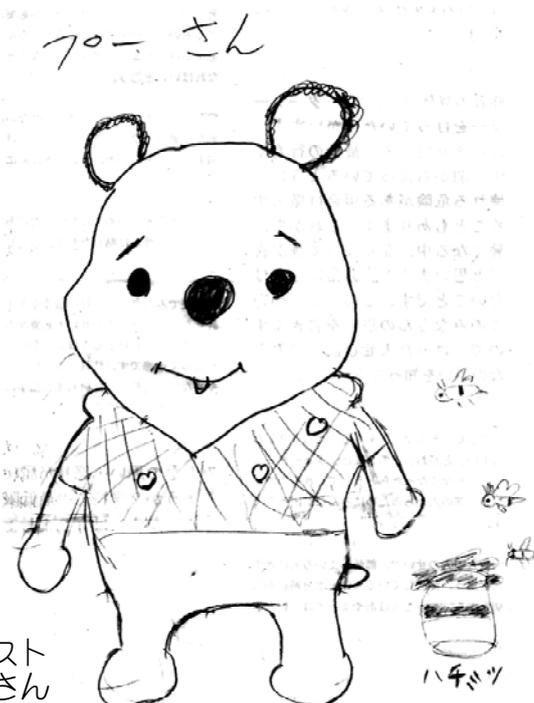
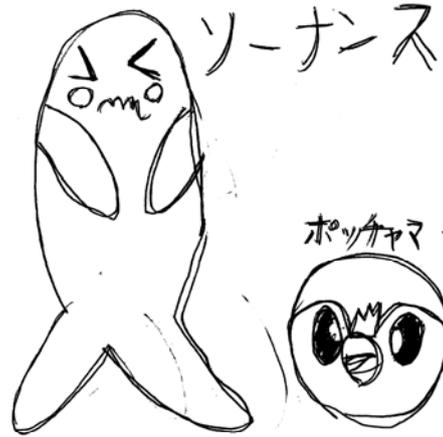


イラスト
福住さん

言葉の意味に思い当たることが出来たようですが、この決め付けてしまうという行為は、ひよっとしたら人と人との関係を雑に扱うことに繋がるのかもしれませんが、もし、その時その言葉がなければ、相変わらず自己満足な結論に浸って、それこそ外的な言葉をそのメンバーに投げかけて、彼を傷つけていたかもしれません。そう考えると、途端にかける言葉がなくなってしまったのです。ひしひしとコミュニケーションの難しさ、重さを感じてメンバーに対して家庭の話題を持ち出すのが躊躇われるようになり、いつかそのうちに、いい機会があれば、などと自分に言い訳しながらぐずぐずとしているのが現状です。

ポケモン



人の内面に立ち入るのは、多かれ少なかれお互いが傷つく可能性をはらんでいます。思えば今までの人付き合いの中でよく似たことを経験してきているのですが、そのたびに僕はコミュニケーションの深みから逃げ出してきているのです。要は自分が傷つくのが怖いのです。そんな怖がりの僕にとっての救いは、僕のしようもない冗談に笑ってくれるメンバーの笑顔に感じるささやかな繋がり、一緒に笑えるものがあるうちは、お互いの中にいくら細くともしっかりと一本の糸が繋がっているという想いです。この想いを頼りにゆっくりゆっくり、恐る恐るとコミュニケーションの深みに向けて、僕とメンバーと歩いていけたらと願う今日この頃です。(専任職員 松村 尚俊)

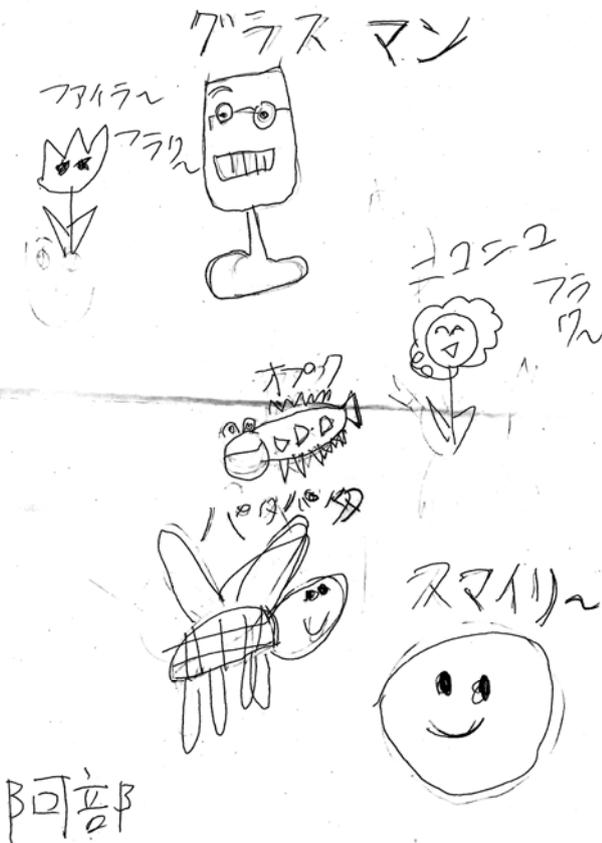


イラスト 阿部さん

当会の活動をご支援下さった皆様

§ 2010年8月1日～2010年9月30日 § (紙面の都合上、敬称は略させていただきます)

ご寄付を下された皆様

匿名、バルネケ、久木田、成瀬、匿名、藤本

(郵便振替口座にご入金下さった皆様) 西沢、匿名

品物を引き取りにお伺いさせて頂いた皆様

○徳島市○松本、第一生命、坂東、木内、藤岡、賀川、近藤整形外科、川西、応神小学校、毛利、鳥野、日浦、野々瀬、苟原、大村、西川、金久、西野、吉永、小倉、笹川、鈴江、森、富永、大櫛、植田、田中、上村、福原、黒川、佐々木、のぼり、駒井、パソQ、岩瀬、藤永、松村、島田、久穴、木村、藤井、桜川、三原、静川、岸本、石本、大島、川崎、丸岡、熊本、谷合、野口、ピンク美容院、小川、天野、楠根、相庭、小山、鎌倉、白川、ルネケ動物病院、徳島ミシン商会、黒崎、辻、曾我部、引越しセンターまるいち、岸、田中、和田、まみ、西川、松井、河野、藤井、お好み焼きブーヤン、坂野、塩田、井端、久米、金村、小村、川野、杉山、鈴木、ケアハウスやまもと、須戸、県立看護学校、向井、片山、猪口、矢田、松永、泊、渡部、高橋、中川、川人、元木、村本、しつ川、山口、鈴江、安芸、樋口、西部、森本、宮武、笹川、松浦、松内、小池、立穴、津田、竹内、シセ、坂東、小間、川崎、金沢、井上、櫻井、谷口、福田、明丸、楠原、野田、浜口、大坂、後藤、川端、五島、岩根、秋山、小泉、櫻木、佐藤、木元、鎌田、西、生駒、久保、村上、榎本、高木、前田、中石、井筒、篠原、平山、芦田、山橋、杉本、中川、大田、志摩、大磯、野田、白木、松村、園田、小山、松田、小倉、大北、宮内、宮井、中山、東、友成、四方、中井、谷本、中山、井内、萩原、広中、美馬、元山、あわや、中西、藤原、渡辺、インレン、稲垣、山下、横田、徳島県土地家屋調査士会館清田、下田、おとみ、城東高校、斉藤、岡本、前川、村沢、坂上、水口、工藤、西下、桑原、好岡、熊本、紗玉、成川、橋本イングリッド、佐野、松本、雲財、山本、谷田、近藤、金野、沢井、森友、梶川、井口、藤川、だるま商事、三好、須戸、徳島ミシン商事、町田、桑村、松野、船井、TEC予備校末田、岡田、楠本、川真田、永井、斉藤、三浦、津村、古野、勝田、石川、中尾、よそみや、奥村、福家、中島、大櫛

○小松島市○内藤、秋田、柿田、松浦、山川、野網、斉藤、近藤○吉野川市○渡辺、松下○鳴門市○武田、若松、南海病院、大和、高田、渡辺、矢野、久龍、大石、山本○石井町○割石、白川、川村、矢野、高橋、中本、山口○神山町○松浦○藍住町○勝田、森、近藤○阿波市○藤原、藤原金物店○板野町○杉本、井上○阿南市○友成○松茂町○松平○北島町○えつだ、加藤、妹尾、広沢、山崎○美馬市○大西

品物を持って来て下さった皆様（郵送含む）

○徳島市○桐本、佐藤、山田、七瀬、郡、楠原、魚住、三原、荒木、浜野、村上、吉岡、内藤、香川、田中、木村、木下、四宮、川人、井原、岡田、道浦、石川、坂東、関口、西、井内、近藤、勝田、久米、堀井、大塚、三木、原田、岡本、福永、服部、伊藤、大村、杉浦、能田、加藤、林、古川、松浦、永松、森本、浜野、河崎、平賀、仁木、瀬谷、松田、清水、中川、為実、井上、蔵本、松浦、西條、相原、鎌田、津田、粟飯原、原田、小森、高松、南部、長楽、佐古、吉見屋タイヤ、小林、宮本、幸田、山本、武岡、福田、日下、賀川、大久保、姫田、森田、力安、亀井、吉本、萩原、遠藤、葉坂、横山、谷井、小畠、大山、溝木、富永、村田、川口、酒井、中西、松田、鈴江、馬場、桜井、登、武岡、宮本、松本、内藤、劉、玉島、河野、久保田、宇野、宮地、吉村、小浜、前野、合田、高橋、紙谷、谷脇、矢野、上杉、荒川、鈴江、長尾、平井、山松、斉藤、高木、立穴、栗本、中島、池田、真弓、萩原、大岩、大和、野口、脇坂、福江、佐々木、下川、藤本、野口、美馬、榎本、瀬川、白川、泉、尾方、渡、中村、和田、三枝、明丸、市村、竹内、梅津、江口、猪本、西森、高橋、東根、小間、藤中、坂口、労福協 なのはなヘルパーステーション、坂部、北浦、中山、谷本、中井、四方、友成、宮井、宮内、大北、小倉、園田、松村、白木、大磯、志摩、大田、杉本、山橋、芦田、平山、篠原、楨本、中石、前田、久保、生駒、西、木元、鈴木、櫻木、小泉、秋山、岩根、五島、川端、後藤、大坂、浜口、谷口、平岡、上田、山城、梅本、荒岡、谷川、多賀花、長谷部、藤川阿部、中東、村川、長谷川、樋口、安田、馬詰、竹口、川原、下田、金本、郡、小村、バンドウリメーク、村田、田岡、村上、小山、中野、小野、大栗、藤永、萩尾、谷、川崎、後藤田、盛、岸野、石井、榊藤、三好、船戸、大野、田所、藤吉、井貝、小松、西林、野々宮、高瀬、川尻、枝沢、本江、住友、芝井、金沢、泉谷、多田、藤野、原、住友 高瀬、小杉、土井、佐藤、矢部、森下、労福協なのはな、野崎、大下、中原、福盛、丸谷、梶本、豊川、福岡、角、森口、藍谷、岸田、山本、原田、流、泉、谷、片保、黒田、一宮、林、高丸、新開、津野、山口、東口、桜井、柳澤、後藤、幸田、岩本、伊丹、久米川、中島○吉野川市○近藤、坂野、川野、斉藤、富澤、河野、森永、片岡、田村、住友、谷、藤井、吉田、打出、中尾○阿南市○松田、遠藤、森、河野、村井、佐野、四宮、武市、板倉、松内、村田、加藤、豆成、石川○藍住町○近藤、青山、日切、井上、南、佐藤、高田、北口、上野、松原、渡辺、国見、小笠原、河野、梅本、象潟、寺内○鳴門市○岡島、梶、吉田、石丸、アンドーラかのん、大坂、

御恩

一、海苔、お茶、砂糖

ありがたく頂戴いたしました。城満寺復興、繁栄と毎日の修行生活にけんめいに精進しております。

〒77510308 徳島県海陽町吉田
電話 0884(73)2093

田中、本当にあふとらごさいました。
城満寺
大槻哲哉
小泉南州
合掌

太陽と緑の会から差し入れを
させて頂きました

大下、山口、山本、大西、坂東、元木、若松○石井町○秋山、武市、福島、川田、鎌田、高橋、小川、佐藤、大下、菅沼、中西、佐々木、清重、黒田、森下、伊藤、城浦、水田、大倉、中村、久米、長城、山本、兼子、新居、神田、瀬部、吉田、石本、中内、橋本、野辺、浅井、美馬、堀江○北島町○橋本、萩原、大西、西條、佐藤、佐川、堀、工藤、長田、美馬、多田、日下、平池、内田、深山、○小松島市○松島、仲氏、中村、森本、大森、河野、吉本、十川○上板町○河野、フロスト峰子、元木、廣澤、安永、湯浅○板野町○吉野、井上書房、二條、井上、高橋○牟岐町○坂本○海陽町○神沢○勝浦町○石本○阿波市○松浦、片岡、川井、松村、平田○美馬市○大西、藤川、加藤、中川○つるぎ町○竹内○美波町○生駒○松茂町○喜来○東みよし町○瀬本○三好市○尾本○神山町○藤川、中嶋○東京都○小山○香川県○三谷○埼玉県○吉田○京都府○木村、井上

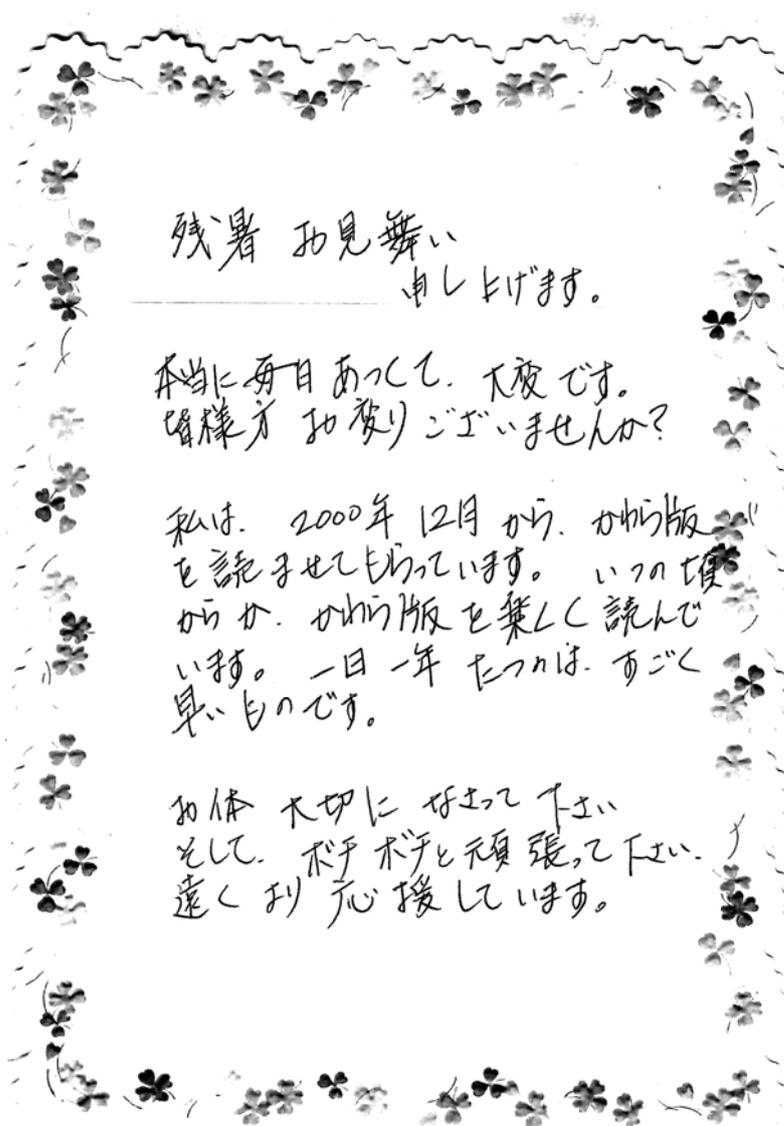
いつも当会の活動にご支援
ご協力頂き、ありがとうございます。

品物を持って来て下さった
皆様の中には、「何回も来て、
書いているので」「名前は結構
ですから」と、お名前を書か
ずに帰られた方もおられ、
実際は上記の2倍以上の方
のご協力を頂いております。

頂いた品物は大切にリユース・リサイクルし、障害者の支援、ボランティア育成、他団体への支援などの活動につなげています。リユース・リサイクル可能なものがございましたら、ぜひお電話下さい。

いつも旬のお野菜や自家製のお漬物を差し入れして下さる吉田様、作業所の昼食用にと牛丼等の差し入れをして下さった河野様、ボランティアでいつも活動をサポートして下さっている片岡様、花壇にお花を植えて下さった藤永様にも、この場を借りてお礼申し上げます。

ありがとうございました。



残暑 お見舞い
申しあげます。

本当に毎日あって、大変です。
皆様方 お夜リゴロいませんか？

私は、2000年12月から、おわり版
を語り始めています。いつの間
にか、おわり版を楽しく読んで
います。一日一年長ければ、あじ
早いものです。

お体大切に頑張って下さい
そして、ボチボチと頑張ってください。
遠くから応援しています。

太陽と緑の会の機関誌を
購読して下さっている方より
お便りを頂きました

編集後記～本番のない人生～

AさんとBさんが、どこかの施設のパンフレットを見ながら、話しこんでいる。

「これ何て読むん？」

「就労訓練って書いとる」

「くんれんって何」

「うーん…。練習するってことや」

「何を練習するん？」

「普通の人と同じように仕事ができるよ、練習するってことやな」

「一般就労ってこと？」

「そう、それぞれ。」

「練習したら、普通の人みたいになれるん？」

「うーん…どうやるなあ」

「何才まであるんやろ、練習って」

「仕事ができるようになるまでかな」

「一般就労できんかったら？」

「別の訓練するんちゃうん(じゃない)？」

「ひよっとしたら、一生練習？」

「練習だけで、本番のない人生か」

「そんなん、ちょっと嫌やなあ」

お客様が太陽と緑の会の店内に入る。

「いらっしやいませ」

レジ担当のメンバーCさんの声に

「あれ、ねえやん、昨日おらんかったやないか。どないしたん(どうしたの)」

「昨日はお休みしていたんです」

「そうか。ねえやんの顔見るん、楽しみにしとったのに」

「今日は奥さん来られてるんですか」

「あれは、今日病院じゃ。ちょっと、風邪こじらしてな。年には勝てん」

別のお客様が端切れを抱えて来る。

「ええもん見つけたわ」

「パッチワークされるんですか」

「ほうよ。あんた、したことあるで」

「ようしません(とてもできません)」

「ほな、今度見せてあげるわ」

日々の「働く」という営みを通じて、社会とつながりを持ち、失いかけた自己を回復していく。当たり前前の日常こそ、今必要とされているのだと思う。(小山)

特定非営利活動法人 太陽と緑の会

私たちは生態系のリサイクルを含めたリユース・リサイクル活動を、様々なハンディを持ったメンバー達の地域活動支援センター・障害者地域共同作業所とリンクさせて、行っています。地域の中で「人も物も活かされる街造り」をテーマに、ハンディーのあるなしにかかわらず「地域の中でその人がその人の足で立っていけること」を目指し、様々な方々(市民、ボランティア、行政)の支えを頂きながら年間300日、土、日、祭日を含めた、日常活動を行っています。

発行：特定非営利活動法人 太陽と緑の会 〒779-3120

徳島県徳島市国府町南岩延 107-1

TEL・FAX

088-643-1054 (事務局)

088-642-1054

(リサイクル、地域活動支援センター)

URL <http://www.t-midori.org/>

E-MAIL t-midori@jeans.ocn.ne.jp

代表理事 杉浦良 編集 小山 隆太郎

データ入力 岡田 郁子

製本・発送 福住ヒサヨ 宇津辰則 走川幸児

年会費：正会員1万円 準会員1,000円

郵便振替口座：01620-8-44703